■'95街づくりキャンペーン〈水と緑と文化の街をめざして〉

『橋』を生かし、富山にヒューマンスケールな都市空間を！

■座談会出席者〈敬称略・五十音順〉

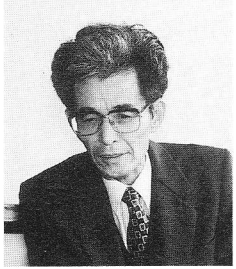
阿部昌夫〈富山土木事務所所長〉
小沢伊弘〈㈱アイバック代表取締役〉
澤田要作〈北陸中央食品㈱会長〉
柴田裕弘〈GA開発研究所所長〉
布村　弘〈高岡法科大学教授〉

■司会

中村孝一〈㈱グッドラック社長〉

▶〝水の都〟ベネチアの橋

出席者


布村　弘さん

柴田 裕弘さん

澤田 要作さん

小沢 伊弘さん

阿部 昌夫さん

ふだん何げなく通り過ぎてしまう「橋」。人々にほとんど顧みられることのない橋は、本来の役割を果たしていると言えるだろうか。〝水の王国〟を目指す富山県にとって、橋はかけがえのない財産である。後世にできるだけ魅力的な橋を残すためにも、我々ひとりひとりが橋について考えてみる必要がありそうだ。

富山らしい夢のある橋を

司会　全国的にも豊富な水量を誇る富山県は、多くの河川に恵まれています。これらの川には必然的に『橋』が架かっているわけですが、残念ながら、名橋と呼べるにふさわしい魅力的な橋は少ないように思います。

一方、世界でも〝水の都〟と言われる都市には、非常に芸術的でシンボリックな橋が多いですね。〝北のベニス〟と言われるベルギーのブルージュなどは、街の名前自体が『橋』という意味だそうです。

さて、〝水の王国〟を目指す富山県にとって、今後どのような橋を架けていくかということは、非常に重要な問題です。富山ならではの、魅力あふれる橋を期待したいですが、今回は皆さんに、この『橋』に対する夢を大いに語っていただきたいと思います。

柴田さんは、ベネチアに何度か行かれたそうですが、橋の印象はいかがでしたか。

柴田　やはり歴史ある水都ということで、橋の手すりひとつにしても、長い時間の中で細かく使い分けられていましたね。日本の橋も、昔はずいぶん時間をかけて作られていたようですが…。

そもそも川は、コミュニティとコミュニティを隔てるものであり、橋を架けることによってそれらをつなぐことができたわけです。ゆえに、橋には人々の深い思い入れがあったと言えるでしょうね。

今、橋は自動車交通の中で単

▶ベルギー・ブルージュ

につなぐ機能だけを重視されがちですが、そこにどのような思いを込めていくかが大切ではないかと思います。

布村　柴田さんのおっしゃる通り、本来、橋はその街の歴史や住民の意識を反映しながら、長い時間をかけて作られるべきものだと思いますね。

特に、富山市のように平板な街では、橋のデザインをもっと工夫することによって、新たな景観美を生み出すことができるのではないでしょうか。

司会　行政のお立場からはいかがでしょうか。

現代の橋に求められるもの

阿部　橋の位置づけは時代とともに変わってきておりますし、そこにも長い歴史があります。古くは友好のシンボル、そして他地域からの流入を監視するべき行政的な場所…。そして、現代の車社会は、橋そのものが意識されなくなった時代であると言えるでしょう。

西洋の石の文化に対し、木の文化と言われた日本も、急速な車の普及に対応するべく、昭和30年以降は猛スピードで橋が架けられました。その結果、機能性のみが追求され、芸術的な視点や歴史性を忘れてきたことは否めません。

しかし、昭和40～50年代に入り、心の豊かさが求められるようになりますと、従来の橋の位置づけを考え直そうという動きが出てきたんですね。よって、近年の橋には様々な視点が取り入れられるようになりましたが、かなりとってつけた部分もあるんですよ。バルコニーや親柱、高欄に趣巧を凝らしたり、ライトアップしても、なんとなく違和感がある。つまり、ただ化粧をするだけではダメなんですね。

これからは、橋自体のプロポーションをよくしていく時代です。そして、素材を生かしたり、街並みとの一体化をはかるなど、周辺を含めた整備も必要になってくると思いますね。

都市環境に花を添える橋

小沢　ひと言で橋といっても、機能を果たしていかねばならない大きい橋、生活道路としての市街地の橋、遊歩道の橋等、様々な橋があります。ゆえに、その橋の意味を考えずにいろんなことをやってしまうと、まったくアンバランスになってしまうわけです。

今後の橋梁整備で重要なのは、まず現状の橋を美観的に見直すこと、それぞれの意味合いを考慮してシンボル化すること、そして、人間空間における〝遊び〟の橋を整えていくことではないでしょうか。ちょっとした遊歩道や橋をうまく利用することによって、景観はグンと良くなります。都市環境に花を添える大切な要素として、橋を理解する必要がありますね。

松川に歩行者専用の橋を

司会　沢田会長さんは、以前、松川の華明橋と塩倉橋の間に、桜木町から市役所へ渡る歩行者用の橋を設けてはどうかという提案をなさっていましたね。

沢田　桜木町は、江戸時代に千歳御殿があった由緒ある場所でもあり、新市庁舎が建ったのを

機に、名所になるような美しい橋を架けてほしいとお願いしておりました。

塩倉橋は城址大通りが横切っているため通行量も多く、老人や子供には危険なんですね。歩行者専用の橋ができれば、安心して渡れますし、是非実現できないかと思っているんですが…。

しかし、この橋を架けると、橋と橋の間が近くなりすぎると言われましてねえ。

歩行者の視点を大切にする

司会　私も最初、あまりにも近いかなと思ったんですが、距離が近いことによって人の賑わいが生まれてくるんですね。それぞれの橋を渡っている人の顔が見えますし、とても楽しい雰囲気になると思います。

阿部　回遊性という点でも、人の流れが生まれるでしょうね。老朽化している華明橋は、いずれ市が架け替える予定ですし、その時に何らかのきっかけがあるかもしれません。

柴田　これからは、特に市街地の橋において、人が渡る橋と車が渡る橋を分けるということも考えていかねばならないと思います。

なぜなら、車でアッという間に通り過ぎる場合と、ゆっくり歩く場合とでは、橋に対する意識が違ってくるからです。歩行者の視点で展開していけば、もっともっと橋にいろんな可能性が見出せるのではないでしょうか。

橋を端（ハシ）から中心へ

布村　さきほど、コミュニティとコミュニティの境目に橋があるという話がありましたが、橋は語源的にも、物事の端（ハシ）と端（ハシ）をつなぐという意味を持っています。しかし、いったん橋を架けてしまうと、そこが端っこから中心に変わってしまうんですね。

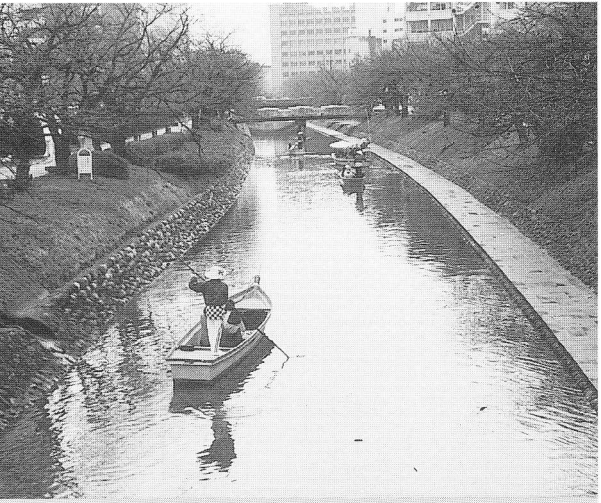
このような橋の役割を、きちんと認識しておくことも大切ではないかと思います。

利用しやすい橋づくり

司会　橋が人々に愛され、中心的役割を果たすためには、利用しやすいということも大切です。しかし、その点については、これから見直していただきたい点が多いですね。

例えば、松川には川沿いに遊歩道がありますが、橋からすぐに降りていくことができません。ですから、下へ降りて散歩してみようという気にならないわけです。遊歩道自体、橋によって1回1回途切れていますし…。

アメリカのサンアントニオという街には、松川に非常に良く似た川があるんですが、橋を非常にうまく使って楽しいリバー



▶松川の塩倉橋から、華明橋方向を望む。この間に橋を架ければ、よりヒューマンスケールな空間が生まれる。

朝日印刷紙器㈱

フロントを創り出しています。そこでは、橋から川をのぞいた時に、川辺へ降りて遊歩道を歩き、そこにかけられたアーチ橋を渡って又すぐに戻ってこれるということが想像できるんですね。

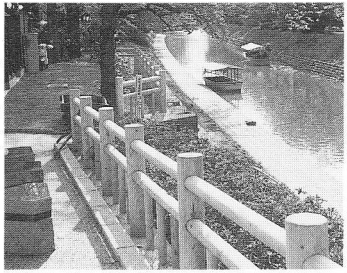
松川沿いも、こんな風にならないかと思うんですが。

阿部　松川辺りは桜の名所であり、64艘の笹舟をつないだ舟橋が架けられていた歴史もあることから、人と川がもっと近づけるようにと遊歩道を作ったわけです。

この遊歩道に関しては、最初橋の下も連続させようという計画がありました。しかし、いろいろな制約や工事の難しさのために実現できなかったんです。

さらに、橋詰めからすぐに川辺りへ降りれるようにする場合、階段が急になってしまうという問題があります。

このように課題も多いわけですが、松川は市の公園にもなっていますから、園路として『橋』を考えていくことは可能です。そこから何かの解決策が生まれてくるかもしれませんね。



▶現在の塩倉橋橋詰め。

後世に残る由緒ある橋を

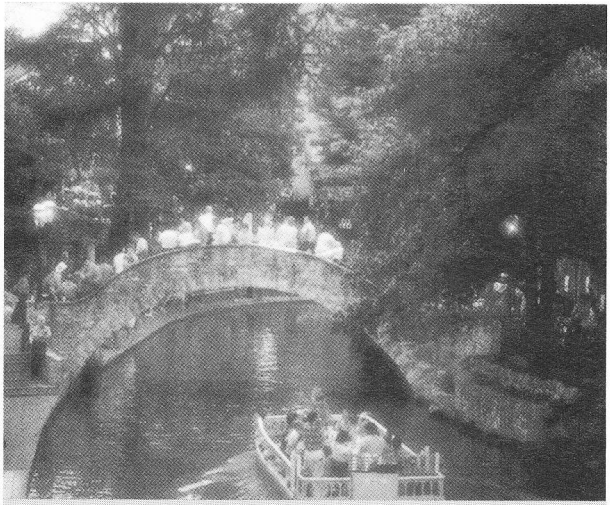
司会　富山市の新庁舎は、水辺に建つということから、世界的にも有名なスウェーデンのストックホルム市庁舎がモデルになったそうです。新庁舎のデザインは、世界的にみても非常に優れているわけです。橋も世界各地の橋を研究してみる価値はあると思いますね。

そして、架け替える際にはその歴史を大切に、デザインや人間性をもっと考えた、〝後世に残す由緒ある橋を架けるんだ〟位の信念を持って、千年の歴史にも耐えられるような立派な価値のある橋を架けていっていただきたいと思います。

では、最後に皆様から一言ずつお願い致します。

ヒューマンスケールな視点で

小沢　貧しかったころは、機能を満たすだけで精一杯。橋も道路もすべてそんな形で進んできたと言えるでしょう。



▲周りの景観や、川からの視点、渡る人々に配慮して架けられたアメリカ・サンアントニオの橋。（提供／アメリカの商務省観光局）

しかし、現代のようなゆとりのある段階では、都市計画が大変重視されるようになりました。全体の予算の5%は景観やデザインのために使うなど、人間が暮らす空間としての快適さが求められているわけですね。

これからは、橋ひとつにしても、常にヒューマンスケールな視点で考えながら都市計画を進めていくべきだと思います。

柴田 私どもでは、入善で「水の小道」という新しい川を作ったことがあるんですが、川の水際はこれからの都市に非常に大切であると同時に、人間には依然として水に対する恐怖感があることを忘れてはいけないと感じました。

そういった意味で、水辺へ降りる階段とともに、上がる階段もきちんと見えるようにしておくべきではないでしょうか。

松川の橋を富山の名所に

沢田 松川も時代とともに変わってきましたが、富山の宝として、今後より一層の環境整備をお願いしたいですね。特に橋については、便利さとデザインを工夫していただき、〝水の王国・富山〟のシンボルとなるような名所になればと思っています。

また、「舟橋」の復活も、富山の歴史を後世に残すという意味で、ご検討いただければと思います。

橋は人間性回復の場所

布村 先ほども申し上げた通り、橋は決して端ではなく、むしろ中心になるべき存在です。そして、我々にとっては人間性回復の場所だと思うんですね。

橋の上で立ち止まり、川の流れを見つめながら、自分の歩いてきた道を振り返る…。慌しい日常の中で、これからの橋の役割は非常に大切だと思います。

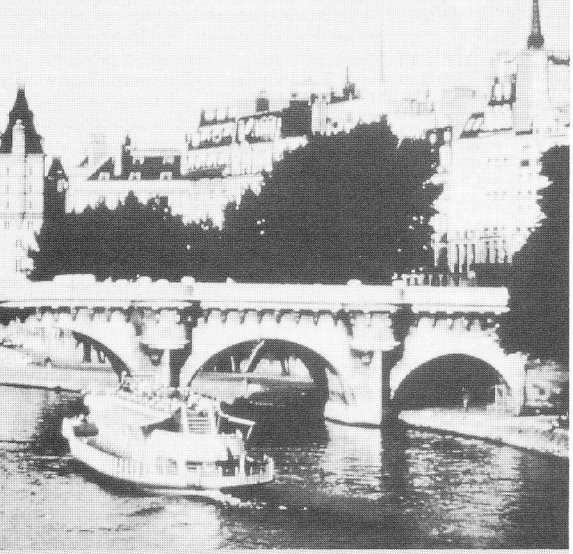
用・強・美の調和を

阿部 土木技術に携わる者といたしまして、私は用・強・美の調和が一番重要だと考えています。「用」は機能性、「強」は強度・耐久性、「美」は単体としての美はもちろんのこと、周りの景観の中における美という面もありますね、

これらの調和を常に念頭におき、その地域にふさわしい橋づくりを目指していかねばならないと思っています。

司会 今まで、橋はどうも端っこに追いやられていたような気がいたします。橋が私達の人生の中心にあって、一人一人の喜びや悲しみなど、ストーリーさえも生み出していくことができたとしたら…。そんな身近な存在になったら素晴らしいでしょうね。

本日はどうもありがとうございました。



▲フランスのセーヌ川には、数多くの歴史とストーリーを秘めた橋が今なお残っている。（提供／フランス政府観光局）

サクラパックス㈱